

四万十川流域の農家民宿

～四万十川流域のグリーンツーリズム～

20世紀も残すところわずかになりました。四万十川でも、夕方に日陰に入ると厚着なしではいられない季節となりましたが、清流通信の読者のみなさんは元気にお過ごしでしょうか。

四万十川流域では、今年2軒の農家民宿(民泊)がオープンしました。位置は四万十川の上流部の梶原町と中流部の大正町です。そこで、今回は農家民宿を紹介させていただきます。

まずは梶原町川西路にオープンした農家民宿「いちちょうの木」から。川西路は周囲を山に囲まれた15軒ほどの小さな集落。主の上田さん宅から隣の家までは100m以上離れており、「いちちょうの木」からは、静かな野山が見渡せます。

農業を営まれている上田知子さんが梶原町川西路にご自宅の一部を改装した農家民宿を開いたのは今年の4月。山菜取りなど、季節に応じたさまざまな農作業の体験ができるほか、農作物を宅配便で送ってもらうこともできます。やさしい上田さんの人柄に惹かれて、2回・3回と訪れる方もいらっしゃるとのこと。

宿泊料金(1泊素泊まり: 3,500円)

一方、大正町にできた、農家民泊「はこば」について。中津川という40世帯弱が住む集落にあり、中津川の集落に入る道の最後の角を曲がると、視界にログハウスが飛び込んできます。

農業と林業をされている田辺荘市さんが、森林のことをもっと知って欲しいとの思いから作られました。ご自身も農業の傍ら、森林組合の仕事も手伝っており、山から切り出した木材でログハウスを建設、農家民泊としてこの夏にオープンさせました。森林で体験できるメニューづくりと広報活動が目下の課題ということですが、ご自身で設計されたログハウスはゆったりとした作りで、夏は川から吹き込む涼しい風が、また冬には室内の備えつけの薪ストーブが部屋を快適に保ってくれます。

宿泊料金(1泊素泊まり3,000円)

上田さんは「人とのかかわりを大事にしたい」と言い、また田辺さんも「たくさんの方との出会いを楽しみにしています」と言われるように、お二人とも、農家民宿(民泊)を都市との交流の場として提供していきたいとおっしゃっておられました。

問い合わせは下記まで

農家民宿「いちちょうの木」 上田知子(ともこ)様方 TEL:0889-65-0418

電子メール siyaji@ps.inforiyoma.or.jp URL: <http://www2.inforiyoma.or.jp/~siyaji/>

農家民泊「はこば」 田辺荘市様方 TEL:0880-27-5305

電子メール hakobas@sun.inforiyoma.or.jp



Tシャツアート展作品募集開始

来年で第13回を迎える、Tシャツアート展(大方町・入野の浜:砂浜美術館)の募集が始まりました。締め切りは2001年3月12日。応募料が1点につき3,500円必要です。

応募者全員には自分がデザインしたTシャツが6月に送られてきます。

お問い合わせは 0880-43-4915 砂浜美術館事務局まで

「森は海の恋人植樹祭」は、来年3月に開催する予定で準備を進めています。